

令和6年7月30日
福島県農林水産部
環境保全農業課

果樹の害虫（果樹カメムシ類）の 注意報を発表します。

病虫害防除所（農業総合センター安全農業推進部）から下記のとおり注意報（※）を発表し、生産者による防除の徹底を呼びかけることとしましたのでお知らせします。

記

- 1 発表日 令和6年7月30日（火）
- 2 対象作物 果樹類
- 3 病虫害 果樹カメムシ類
- 4 対象地域 県内全域



写真1 もも葉上のクサギカメムシ



写真2 なし果実上のチャバネアオカメムシ

※注意報 重要な病虫害の多発生が予測され、かつ、早めに防除措置を行う必要があると認められる場合に発表するもの。

- 果樹カメムシ類は、果実を吸汁する害虫で、主にもも、なし、りんご等を加害します。吸汁された果実は変色や、落果などの被害が発生することから、病虫害防除所から、適期防除を徹底するよう注意喚起を行います。
- 病虫害防除所のフェロモントラップ調査の結果、果樹カメムシ類の誘殺数が、調査している全8地点で平年より多くなり、うち6地点は直近の多発年（2020年）よりも誘殺数が多くなりました。以上のことから果実被害の拡大が懸念されます。

注意報の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/keihou-2024.html>

（お問い合わせ先）

福島県病虫害防除所（福島県農業総合センター安全農業推進部）

次長 菅野 英二 電話024-958-1707

令和6年度 病害虫発生予察情報

注意報 第3号

令和6年7月30日
発表：福島県病害虫防除所

果樹カメムシ類の誘殺数が多い状況が続いています！

第一世代成虫の園地への飛来状況に注意し、防除を徹底しましょう！

- 1 対象作物：果樹類
- 2 病害虫：果樹カメムシ類
- 3 対象地域：県内全域
- 4 発生量：多い

[予報の根拠]

- 1 フェロモントラップ調査における4月5半旬～6月6半旬の果樹カメムシ類の越冬世代の誘殺数は、調査している8地点のすべてで平年より多く、平年の2～6倍であった（表1）。また、6地点では直近の多発生年（2020年）と比較して誘殺数が多かった。
- 2 7月以降も多数の誘殺が続いている地点があり（図1～3）、7月中下旬の発生予察巡回調査において、リンゴ、モモ、ナシとも被害果が確認されている。
- 3 以上のことから、果樹カメムシ類の密度が高く、8月以降の第一世代成虫の飛来による果樹類での被害が懸念される（図1～3）。

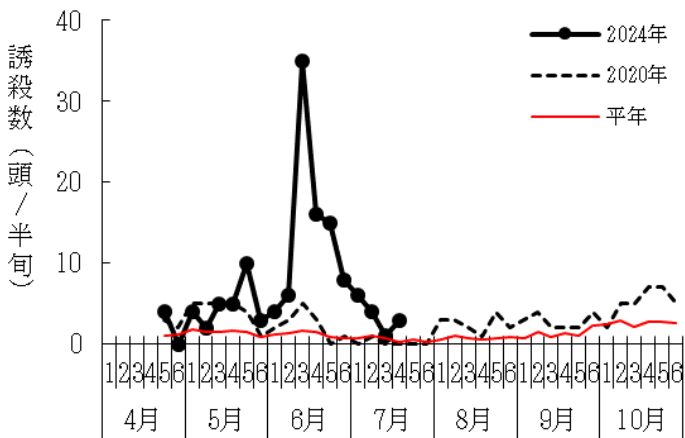


図1 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況（福島市大笹生）

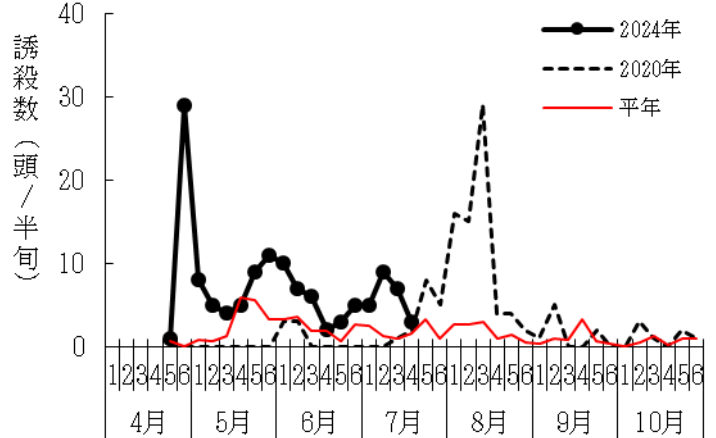


図2 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況（国見町）

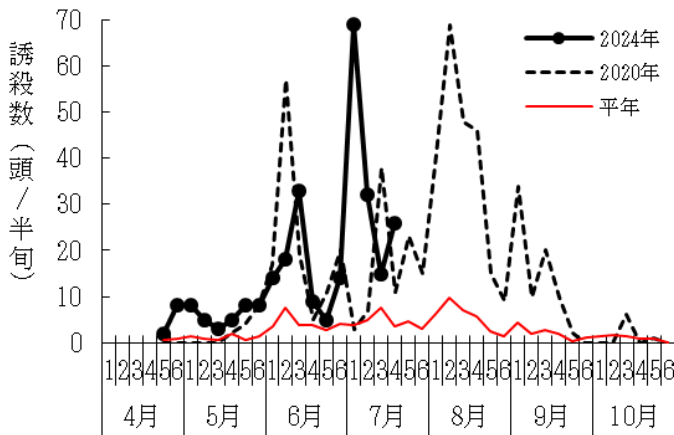


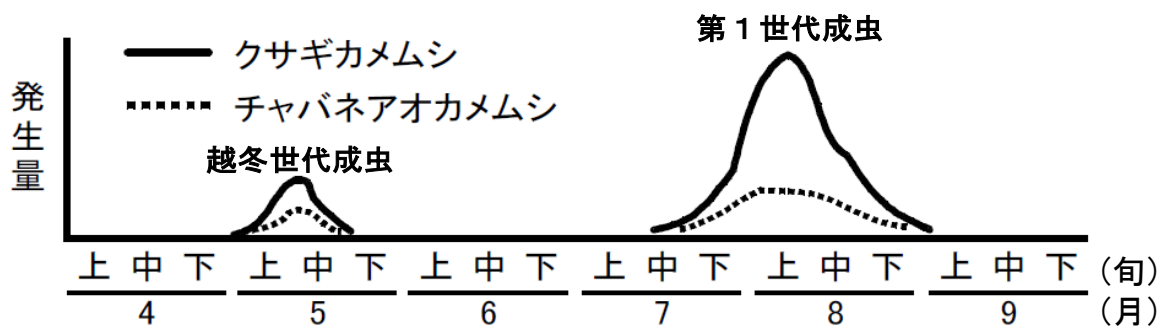
図3 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺状況（鏡石町）

表1 フェロモントラップにおける果樹カメムシ類越冬世代の誘殺状況（4月5半旬～6月6半旬）

調査地点	誘殺総数（4月5半旬～6月6半旬）			平年比%
	本年	2020年	平年	
福島市大笹生	117	44	19	612
福島市飯坂町	18	0	3	563
国見町大木戸	105	6	32	329
鏡石町蒲の沢町	140	143	34	415
郡山市熱海	40	9	7	558
会津坂下町杉山	43	64	21	201
相馬市磯部	219	143	50	438
いわき市西小川	11	0	0	—

[防除対策]

- 1 果樹カメムシ類の第一世代成虫は、通常7月下旬頃から発生し、8月上旬頃にピークとなる（図4）。ただし、園地への飛来時期については予測が困難であるため、園内での成虫の飛来状況をよく確認し、多数の飛来を確認した場合は、樹種に応じて表2～4の薬剤を選んで早急に散布する。その際は農薬使用基準を遵守すること。また、合成ピレスロイド剤（3A）は天敵への影響が大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招くことがあるので留意する必要がある。
- 2 果樹カメムシ類は、移動性が大きいので、防除効果を高めるために、地域で一斉防除を行うことが望ましい。また、本年は、ナシヒメシンクイの発生が多いため、定期的予察情報などを参考として、カメムシ類と併せて防除を徹底する。
- 3 多目的防災網の設置は、果樹カメムシ類などの飛来性害虫の被害を抑制できる（平成28年度参考となる成果）ので、速やかに展帳する。設置可能な園地では、今後の飛来に備えて設置する。



出典：福島県果樹指導要綱

図4 果樹カメムシ類の飛来消長模式図

表2 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（リンゴ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希釈 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
イカズチWDG	セルメトリン	3 A	1,500倍	散布	収穫前日まで	2回以内
スカウトフロアブル	トラメトリン		<u>1,500倍</u>	散布	収穫前日まで	5回以内
ロディー水和剤	フェンプロバトリン		<u>1,000倍</u>	散布	収穫前日まで	2回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム	4 A	2,000倍	散布	収穫7日まで	2回以内
アルバリン顆粒水溶剤	ジテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤						
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内
バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。

表3 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（モモ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希積 倍数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
アーデント水和剤	アクリナトリン	3 A	1,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
アグロスリン水和剤	シベルメトリン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	5回以内
アディオオン乳剤	ベルメトリン		2,000倍	散布	収穫7日前まで	6回以内
イカズチWDG	シベルメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	5回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム	4 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
アドマイヤー顆粒水和剤	イミダクロプリド		<u>1万倍</u>	散布	収穫3日前まで (ただし、露地栽培については発 芽期から開花期 を除く)	2回以内
アドマイヤー水和剤			1,000倍			
アルバリン顆粒水溶剤	ジテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤						
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫7日前まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希積倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。

表4 果樹カメムシ類防除剤の農薬使用基準（ナシ）

薬剤名	有効成分	RAC コード	希積倍 数	使用 方法	使用時期	本剤の 使用回数
アディオオン乳剤	ベルメトリン	3 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
イカズチWDG	シベルメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	3回以内
スカウトフロアブル	トラロメトリン		1,500倍	散布	収穫前日まで	5回以内
ロディー水和剤	フェンプロバトリン		1,000倍	散布	収穫前日まで	2回以内
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム	4 A	2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
アルバリン顆粒水溶剤	ジテフラン		2,000倍	散布	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤						
ダントツ水溶剤	クロチアニジン		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド		<u>2,000倍</u>	散布	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和6年7月10日現在。希積倍数の下線は試験研究成果に基づき、効果的な使用方法を示すものである。

●情報内容への質問は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727